江北の四季

令和２年
10月10日
第28号

雨の日の琵琶湖岸　冬鳥の群れ(上の写真も)

○第四十九候、寒露、初候、鴻雁来(こうがんきたる)。

一月(ひとつき)前、夏の厳しい暑さが去って光輝いていた早朝の**白露**(はくろ)も、今や冷たく寒々しくも感じ、**寒露**(かんろ)と呼ばれるころとなりました。秋も深まり朝晩ぐっと冷えるようになりました。その分日中は秋晴れとなる日が多くなり行楽日和です。三密を避け秋の深まりを楽しみたいものです。また、空気は澄み、お月様はより美しく皓々(こうこう)と輝きます。中秋の名月に次いで美しい名月だと言われている十三夜の月(旧暦九月十三日　新暦十月二十九日)も見上げたいものです。

九月二十日前後は、四十五候、白露、末候の玄鳥去(つばめさる)で、子育てを終えたツバメたちは暖かい南の地へ旅立ちました。その入れ違いに日本へ来て冬を過ごすのが雁です。雁は、「がん」とも「かり」とも読みますが、琵琶湖周辺で見る冬鳥は、雁ではなくカモ(鴨)やカイツブリ(鳰(にお))です。二週間程前から見かけるようになりました。

秋は夕暮れ。夕日のさして山の端(は)いと近うなりたるに、烏(からす)の寝どころへ行くとて、三つ四つ、二つ三つなど、飛びいそぐさへあはれなり。まいて雁などのつらねたるが、いと小さく見ゆるはいとをかし。日入りはてて、風の音、虫の音など、はたいふべきにあらず。

『枕の草紙』　清少納言

秋は夕暮れが良い。夕日がさして、山ぎわに近くなったころに、からすが、ねぐらに帰るために、三羽・四羽、あるいは二羽・三羽、飛んでゆくのも、しみじみとしている。まして、かりなどの列をつくっているようすが、(遠くを飛んだりして)小さく見えるのは、とても、おもむきがある。日が沈んでしまって、風の音や虫の声が聞こえてくるのは、言うまでもない(言うまでもなく、とても、おもむきがある)。

この近くで雁を見ることはまずありませんが、千年も前の随筆には雁が出てきます。

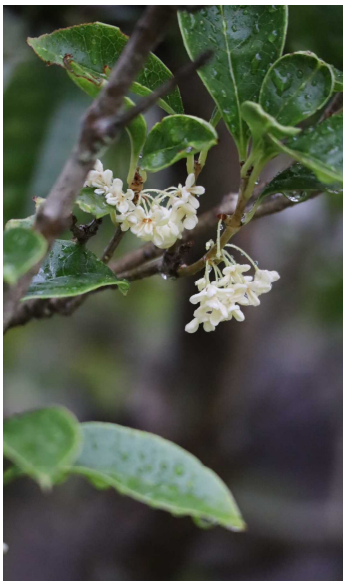
また、「雁行（がんこう）」（季語）や「落雁（らくがん）」（お菓子）などの言葉や、「雁首を回す」「雁字がらめ」なんていう言い回しもあるくらいですから、以前は日本のあちこちで雁がたくさん見られたのでしょうね。調べると、雁は江戸時代や現代では禁猟ですが、明治期に禁猟が解かれたため、乱獲されて数が減ったそうです。

キンモクセイ（金木犀）

♪

桃色 紫 紅色　　山吹色の金木犀
あなたがため あなたが好き 池ができるほどの涙
あなたがため あなたが好き 星の紅を口に塗った
あぁ 頂だい　　愛 頂だい
金木犀の香りに 抱かれて抱かれた日々
二度と戻らぬと承知で あなたに恋い焦がれる ♪

金木犀　作詞・作曲　笹川美和



ギンモクセイ（銀木犀）

サイの足？

☆キンモクセイ（金木犀）

庭の金木犀・銀木犀が十月七日に一斉に咲き出しました。六日の日はまだ堅い蕾に見えていたのですが、翌日には甘い強い香りを放つようになりました。ジンチョウゲ（沈丁花）、クチナシ（梔）とともに三大香木と言われています。この木の樹皮が動物のサイ（犀）の足に似ているため木犀と名付けられたようです。銀木犀が白い花を咲かせるのに対して、橙黄（とうおう）色の花を金色に見立てて金木犀と言います。江戸時代に中国から渡来したときに花つきのいい雄株だけ輸入したそうです。実ができないので挿し木や取り木で増やしてきたので、日本の金木犀はどれもクローンとなり、ほぼ同じ時期に咲き出すことになります。彼岸花や桜のソメイヨシノもクローンで増えたものですので、同様の現象が見られますね。

菊が咲いています。何菊だったかな？

ヒマ(蓖麻)

☆蓖麻(ひま)ではありません。ヒマです。別名はトウゴマ(唐胡麻)。種子から採れるひまし油は、工業用の潤滑油や化粧品の材料として広く利用されているようです。花は小さく目立ちませんが、赤い茎と赤い実が面白いので、夏から秋の花の少ないときに新風体に使っています。葉は水揚げが悪いので花の近くの小さい葉を一～二枚ほど残すくらいにします。霜に当たると枯れてしまうので、種を採取しておいて春に蒔(ま)くか、こぼれ種に任すかしています。購入した種を蒔いたときは、葉は銅葉でしたが、年々色が抜けて緑葉になってしまいました。耐暑性が高く、強健で育てやすい植物です。

○第五回池坊近江湖陽会花展

四月に開催予定の花展がコロナ禍のため延期になっていましたが、十月三日の合同会議で十一月八日(土)～九日(日)に実施することになりました。規模を縮小しての展示とＨＰ上へのアップという特別なやり方です。最近になって当地でも二名の陽性者が出ましたので心配な面もありますが、なんとか実施をしたいものですね。テーマは「湖陽に花きらめく～今、新たな歩み～」です。湖面が陽光に照らされて輝くように、私たちも楽しい中にさらに精進して充実した人生を過ごしたい、と願って設定されました。あと一ヶ月です。皆様、テーマを温めましょう。

フジバカマ(藤袴)

☆フジバカマ（藤袴）は秋の七草の一つで、万葉の時代から親しまれてきたようですが、絶滅危惧種となっています。販売されているのは園芸品種です。蕾のうちはかわいいですが、咲き出すと白いおしべが糸のように突き出てくるので興ざめです。花の白いフジバカマも昨年までは育てていましたが、地下茎が広がりすぎ、周りの植物を圧倒しかけましたので、藤色のものだけを残して処分してしまいました。咲いた花は好きではありませんが、蜜を求めてやってくる美しい蝶、アサギマダラが見所です。

生花新風体

ススキ、オオゲタデ、アヤメ

立華新風体

ススキ、シュウメイギク、ムラサキシキブ、ホトトギス、セイタカアワダチソウ、観賞用唐辛子(ブラックパール)、ミズヒキソウ、シラン

生花正風体

チャ(茶)の一種生け